

# 組合士 アラカルト

日本ローカルネットワーク  
システム協同組合連合会

やました せつこ  
山下 節子さん

## 全国の会員、組合員に役立つことを求めて日々活動

日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会（以下JL連合会）本部の山下節子さんの担当する業務は実に多岐にわたる。その内容をまとめると、「JL連合会に所属する事業者みんなに役立つ事業は何かを常に考え、事業の芽を探し、企画を立て、実現のために全国各地を飛び回って活動する」となる。しかも、「事業者みんな」とは北は北海道から南は九州・沖縄まで、地域も規模も千差万別の中小トラック運送事業者1600社である。その日常が「目の回るような忙しさ」であることは想像に難くない。しかし、山下さんは「そんな息の抜けないところをやりがいを感じ、楽しめています」と明るく言い切る。

### ネットワーク力で全国の組合員が事業力をアップ

JL連合会は、平成7年設立の、全国中小トラック運送事業者が自ら作り上げてきた日本最大の物流ネットワーク組織である。その会員数122組合、各組合に所属する事業者は上述の通り、1600社に達している。平成13年には組織改革を行い、北海道、東北、関東、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の7地域本部を設置している。

山下さんが奉職するJL連合会本部は大阪にあり、7地域本部の上位組織として、輸送情報のネットワークシステムの構築と維持管理、所属事業者のための各種共同事業等を実施するほか、会員からの会費徴収など本部及び7地域本部の固定費の管理・運営にも当たる。その本部の最大の役割は、会員の事業拡大につながるような連合会全体としてのビジョンを描き、それらの実現につながる各種事業の企画を立案、実現することである。具体的な事業推進を担うのは協働経済事業推進事業部で、システム維持管理や組織拡大や保険審査などのテーマごとの会議があり、案件の審議は執行機関である理事会が行い、そこを通った案件は122の理事長が集まる総会で議決される。地域の議論や要望も十分に活かすために、各地域本部には本部の事業部や会議体系にそった事業部が置かれ、また、最高協議機関である幹事会で十分な討議を行う体制を整えている。

### さまざまな出会い、ふれあいがやりがい

本部事務局は専務理事以下8名体制で、事業部や会議の実務を束ねて運営・管理している。山下さんは協働経済事業推進

事業部を担う担当課長である。前述の通り、「事業の芽、可能性」を探して席を温める暇のない忙しさだが、「一緒に仕事をしている女性2人はとても優秀なので、私が1を言えば、2つも3つも仕事をこなしてくれる。この仲間がいればこそ」と、チーム力が最大の強みであると強調する。

JL引越センターや積み合わせなどの事業に加え、昨年11月にはうれしい新事業「JL特定信書便事業」が立ち上がった。全国規模の協同組合連合会で総務省から許可を得たのはJL連合会が第1号。「会員組合に所属する事業者と委託契約を結び、企業や官公庁の信書送達事業を全国各地で展開、組合員事業者の新事業として経営基盤の強化に繋げてもらいたい」と語る山下さん。周知広報のため、各地を飛び回るのは確実だ。



総特第58号

これが信書便のシンボルマーク

### 目指すは組合事務局女性職員のパワーアップ

組合士は平成19年に受験し、1回で合格した山下さんだが、「きつかけは、その年に入ってきた新人2人と一緒に「組合士を取ろう」と決意。資格取得は新人さんのおかげです」と、真相を語る。現在は京都府中小企業組合士協会の理事として、「組合事務局に勤める女性全体の地位の基盤固めと向上につながる活動を展開したい」と取り組み中だ。「働く形態がどんなかたちであっても、一人ひとりの女性職員が働きがいを持てる組合事務局であってほしい」と願っているからであり、そのために、地味な自分の経験を伝えながら一助にしていただければと意欲を燃やしている。

